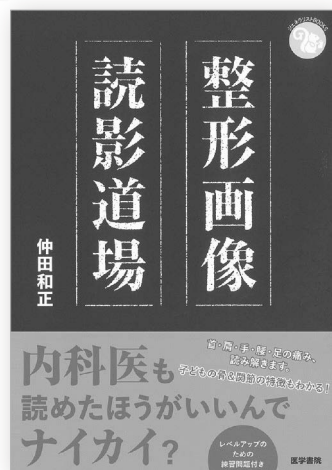


今月の特集関連本

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート (p.1153) に
ご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



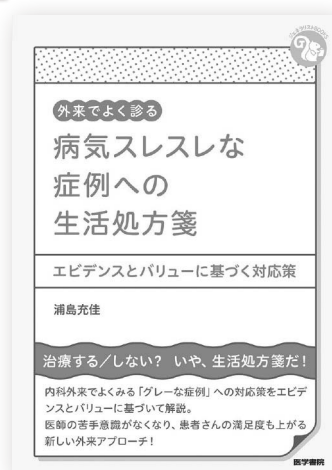
《ジェネラリスト BOOKS》

整形画像読影道場

仲田和正＝著

本体 3,600 円＋税／A5 判・164 頁／医学書院／2019

内科医も、これは読めたほうがいいんでナイカイ？ 本誌好評連載からの書籍化。プライマリ・ケアの現場で多くみられる首・肩・手・腰・膝・足の痛み。内科医に必要な整形疾患に関する知識、X線画像の読み方、診断のポイント、そして記憶に残る覚え方などを多くの写真やイラストとともに解説した！ 高齢者に多い疾患だけでなく、子どもに特有の疾患や骨・関節の特徴も詳説。レベルアップのための練習問題もついています。p.1132 に書評あり。



《ジェネラリスト BOOKS》

外来でよく診る
病気スレスレな症例への生活処方箋
エビデンスとバリューに基づく対応策

浦島充佳＝著

本体 3,600 円＋税／A5 判・212 頁／医学書院／2018

一般内科外来には、ガイドラインでグレー（治療適応かどうかギリギリ）な症例も多く来院し、対応が難しいケースとなっている。しかし、そんなグレーな症例も、エビデンスとバリュー（患者の価値観）を基盤としたアプローチにより診療の幅は広がり、患者の満足度は上がる。外来で多く出合う生活習慣病の症例を中心に、「生活処方箋」という新たな武器を示しながら、生活習慣病の新しい診療戦略をわかりやすく示した。ヘルニア (p.1094) や肩インピンジメント症候群 (p.1075) に触れています。



『medicina』2020 年 6 月 (Vol.57/No.7)

運動・スポーツ×内科

内科医に求められるスポーツ医学とは

田中祐貴＝企画

本体 2,600 円＋税／B5 判・184 頁／医学書院／2020

運動・スポーツは、すべてのライフステージにおいて、健全な心身の発達（小児期）から生活習慣病・悪性腫瘍・認知症の予防（老年期）に至るまで、さまざまな医学的効果をもつ。本特集では、生活習慣病や心臓病を抱える患者が、安全に運動に取り組み、病態の改善や機能の維持を図ることをサポートするための実践方法を解説した。日本に数少ないスポーツ内科医による企画。東京オリンピック・パラリンピックは延期となってしまったが、「スポーツ傷害管理」(p.1102) と併せて読みたい。